



生活協同組合 **コープみえ**

2024年 コープみえ
サステナビリティレポート

発行月：2024年6月

お問い合わせ先

〒514-0009 三重県津市羽所町379番地
生活協同組合コープみえ 機関運営部
TEL 059-271-8507 FAX 059-222-5025
ホームページ <https://www.coop-mie.jp>

[コープみえ](#) [検索](#)

●**編集方針**● コープみえの事業・組織、組合員活動、社会貢献活動・環境の取り組みについて報告しています。報告対象期間を2023年3月21日から2024年3月20日の期間とし、コープみえの活動のほか、関連する東海コープ事業連合の活動、情報を含んでいます。

生活協同組合 **コープみえ**



つながりあう安心、笑顔が輝く暮らし

コープみえ
サステナビリティ
レポート

2024



コープみえ
キャラクター
みえっぴい

コープみえの事業、社会、環境活動の報告書です。コープみえSDGs宣言に沿って2023年度の活動をまとめました。



資源や環境に配慮して、エコインキと再生紙を使用しています。このサステナビリティレポートは、カーボンオフセットされています。サステナビリティレポート1部のCO₂排出量は約266gです。

サステナビリティレポートの発行にあたって

平素より格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

関係者の皆様にこのサステナビリティレポートを通して、コープみえの1年間の社会的な活動についてご報告いたします。

コロナによって大きく変わった私たちの暮らしも、徐々に以前の姿に戻ってきています。地域の取り組みやイベントなども4年とか5年ぶりに開催されたなどのニュースが多く聞かれるようになりました。

コロナは「つながりの危機」を白日のもとにさらけ出しました。以前より少子高齢化がすすむなかで、社会保障制度の綻びとともに家族や地域での支え合いの力が失われつつあることが問題視されていましたが、それがコロナによって一層深刻な状況となり、「つながり」の大切さをあらためて実感することとなりました。

コープみえは「つながりあう安心、笑顔が輝く暮らし」の基本理念のもと、一人ひとりの声を大切に、誰もが安心して暮らし続けられる社会をめざしてきました。「つながり」の糸口は決して大きなものではありません。たとえば「この生協の商品おいしいよね」「そうそう、私も大好き」そういった日常の小さな笑顔とともに生まれる小さな共感がやがて暮らしを支え合う大きな力となっていくのではないのでしょうか。生協にとっての商品は、売って終わりではなく、そこで生まれる小さな笑顔、小さな幸せを紡いでいく力を持っているのです。



2024年6月
生活協同組合コープみえ
理事長 鈴木 稔彦

世界ではロシアのウクライナ侵攻をはじめ、イスラエルのガザ地区への人道的に容認できない殺りくが続いています。なんの罪もない小さな子どもたちが傷つき、食料や医薬品も届かず、大切な命が奪われています。核兵器の使用も口にする大国に対して、私たちの声はあまりに無力なようにも感じますが、平和を守るのは決して武器ではないことを訴え、平和への祈りをこめて折り鶴を折ることができるような「心」の環を大きくしていくことこそが大切なのではないのでしょうか。

コープみえはこれからも基本理念のもと、平和な社会を未来に引き継いでいくため、暮らしの願いに応える取り組みを一層強めていく所存です。引き続き皆様のご指導ご援助をどうぞよろしくお願い致します。



コープみえの事業



●宅配事業

毎週1回、決まった曜日に指定された場所に商品をお届けしています。商品の受取方法は、暮らしに合わせて、グループ購入、コープ宅配、ステーション購入から選んでいただけます。商品の主な仕入先は東海の3生協(コープあいち、コープぎふ、コープみえ)でつくる東海コープ事業連合です。



●店舗事業

みやがわ店(伊勢市)とまつさか店(松阪市)の2店舗があります。組合員にとって必要なお店、私のお店と思ってもらえる店づくりをすすめています。

●福祉事業

「安心」「笑顔」「健やか」「想い」「共有」を大切に、利用者一人ひとりに合った自立をめざしたサービス提供に心がけ、福祉サービスをすすめています。



●くらしの事業

くらしに役立ち、より豊かにするために、夕食宅配、葬祭、宅配灯油、共済、すまいの事業、その他の斡旋サービス事業などをすすめています。

■組織の概況(2024年3月20日現在)

名称	生活協同組合コープみえ
設立	2003年3月21日
本部所在地	〒514-0009 三重県津市羽所町379番地 TEL 059-271-8500(代表) https://www.coop-mie.jp
事業エリア	三重県一円
組合員数	209,321人
出資金(10千円)	49億7,065万円
加入率	27.6%
役員	理事23人 監事5人 理事長 鈴木稔彦 専務理事 鈴木克彦
職員数(出向者含む)	ゼネラル(正規職員) 234人 ジョブ(パート職員) 237人
子会社 スマイルサービスみえ	事業高 1億6,969万円 (7月末現在:決算期変更の為2023年2月1日から2023年7月31日)

■経営状況 2023年3月21日~2024年3月20日

総事業高	237億2,187万円
供給高合計	230億8,379万円
福祉事業収入	4,797万円
その他事業収入	5億9,010万円
事業総剰余金	53億8,264万円
事業経費	47億2,799万円
事業剰余金	6億5,465万円
経常剰余金	7億6,811万円

■事業所・事業内容

宅配事業 9センター	桑名、四日市、鈴鹿、津宅配、津南、松阪、紀北、伊勢、伊賀
ステーション	全県26箇所
店舗事業2店舗	まつさか店(松阪市) みやがわ店(伊勢市)
福祉事業1事業所	福祉サービスセンター松阪(松阪市) 事業内容: 通所介護事業 居宅介護支援事業 訪問介護事業
くらしの事業	共済事業(受託)、夕食宅配事業、斡旋サービス事業

■関連組織紹介

生活協同組合連合会 東海コープ事業連合	東海3生協(コープぎふ、コープあいち、コープみえ)が出資し、会員単協の商品、物流、情報システム等を合同し、事業を推進しています。
株式会社 コープサービス東海	東海3生協、東海コープ事業連合が出資し、損害保険代理事業、生命保険募集に関わる業務を行っています。
株式会社 スマイルサービスみえ	コープみえの子会社として、宅配や夕食宅配の配送業務、施設・設備の保守・管理・清掃業務、くらしの便利屋等を行っています。

みんなの願い 基本理念

「つながりあう安心、笑顔が輝く 暮らし」

～ 平和な社会を未来に引き継いでいきます～

2030年ビジョン

コープみえは、2030年ビジョンの取り組みを通してSDGsのゴールに貢献します。「2030年ビジョン」と「SDGs」の基本的な考え方やめざす方向は同じです。コープみえは、ビジョンの実現に向けた事業と活動を通して、SDGsの達成に貢献できるようにします。

ビジョンに掲げられているキーワード「地域」「食と健康」「人」を、コープみえのSDGs行動宣言で掲げた7つの取り組みとつなげて考えることで、コープみえの取り組みとSDGsのそれぞれの目標とのつながりを分かりやすく伝え、ひろげていきます。私たちがめざすビジョンを、SDGsに沿ってさらにすすめます。



ビジョン 1

安心して暮らし続けられる地域社会づくりをすすめます

目標

- ①地元メーカー、生産者の商品を通して産業と地域の活性化をはかります
- ②すべての地域で組合員が事業と活動に参加しています
- ③各協同組合の強みを出し合って、SDGsの実現をめざします
- ④世界平和の実現に貢献します
- ⑤事業と活動を通して、脱炭素社会への取り組みをすすめます



ビジョン 2

よりよい「食と健康」のある暮らしをめざします

目標

- ①安全・安心なものを手に取りやすい価格でお届けします
- ②食品ロスを減らすしくみをつくります
- ③子どもたちへ安定した食事と健康を提供します
- ④全ての人々が健康的な生活を送るための情報を提供します



ビジョン 3

すべての人への配慮や思いやりを大切にします

目標

- ①だれもが利用しやすいしくみをつくります
- ②ジェンダー平等・障がいのある人をはじめ、あらゆる人が活躍できる場所をつくります
- ③地域のつながりをつくることで、地域の困窮への助けあいの輪をひろげていきます
- ④人と地域に役立つような人（職員）づくりをすすめます
- ⑤気持ちの良いあいさつを心がけ「まち」の治安に貢献します
- ⑥育児、介護で悩んでいる人へのサポートをすすめます



「コープみえSDGs行動宣言」～SDGsを実現するための7つの取り組み～

SDGs (持続可能な開発目標) を組織と地域の中にひろげあい推進します。

コープみえでは、2019年第17回通常総代会で「コープみえSDGs行動宣言」を採択しました。「つながりあう安心、笑顔が輝くくらし」の理念のもと、組合員との絆を大切に、地域や行政・諸団体、メーカー・生産者と連携し、これまでもSDGsに関わる諸課題に取り組んできました。

SDGsの達成目標は、これまで生協が大切にし、取り組んできた活動や事業そのものといえます。「2030年理念・ビジョン」のもと、「コープみえSDGs行動宣言」をすすめるとともに、私たち組合員が希求する理念とビジョンの達成をめざし、2030年に向けて引き続き協力の力で持続可能な開発目標 (SDGs) の実現に貢献していきます。



SDGsとは

SDGs (エス・ディー・ジーズ) とは、2015年9月に国連で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ (行動計画)」に記載された、国際的な取り組み目標である「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals)」の略です。持続可能な世界を創出するために、2030年までに全ての国や地域で取り組むべき17の目標とそれを達成するための169の具体的な取り組み内容、取り組みの成果を計るための232の指標で構成されています。

2030年到達目標 (めざすもの)

SDGsを実現するための7つの取り組み	おもな到達目標(めざすもの)
① 持続可能な生産と消費のために、商品とくらしのあり方を見直していきます	・地元産商品の取り扱いが増え、県内企業及び生産者と連携した取り組みの展開 ・地元商品の利用点数
② 地球温暖化対策を推進し、再生可能エネルギーを利用・普及します	・CO ₂ 総排出量=802t以下 60%削減 (2013年比)
③ 世界から飢餓や貧困をなくし、子どもたちを支援する活動を推進します	・フードバンクなどへの提供数 ・子ども食堂の数 ・食品廃棄量の重量と金額
④ 核兵器廃絶と世界平和の実現をめざす活動を推進します	・日本が核兵器禁止条約に批准 ・平和についての署名数・募金額
⑤ 誰もが安心してくらし続けられる地域社会づくりに参加します	・組合員数28万人 ・災害協定 全29市町
⑥ 健康づくりの取り組みをひろげ、福祉事業・助け合い活動をすすめます	・健康情報の提供数 ・食育の情報提供数、学びと体験の場づくりの数
⑦ ジェンダー平等と多様な人々が共生できる社会づくりを推進します	・障がい者雇用率6.1% ・女性職員比率30%以上 ・女性管理職比率20%

職員からのSDGsへの思い 職員のSDGsへの理解が一步ずつすすんできました。日ごろ感じているSDGsへの思いを聞いてみました。



キャリア支援課
奥中 健太

一人暮らしなので食品ロスを防ぐため、1週間分の献立を考えてから使い切れる食材を購入しています。



松阪センター
宮本 侑真

使用頻度が少ない家電のコンセントをこまめに抜いて、電気の使用を節約しています。



東海コープ 情報システム部
生島 康太郎

システムが広がることで紙の出力が軽減されると考えています。プライベートでは、エコバックやマイボトルの使用でゴミを減らすことやコンビニへ買い物に行ったときは、手前どりを心がけています。



宅配事業推進課
宮本 恵理

食品ロスを意識しています。食材を使い切れるよう、1週間の献立を考えてから必要なものを買うようにしています。廃棄してしまわないように、意識しています。



四日市センター
伊藤 奈穂

ゴミを減らすことを意識しています。マイボトル、マイバッグは必須! 毎日、お弁当を作っています。



桑名センター
角谷 帆星千

環境に配慮してペットボトル飲料の購入をやめ、マイボトルを持参するようになり、使い捨てスプーンなどの使用を控えています。



伊勢センター
藤本 篤子

保育士をしていたこともあり、常に子どもたちが豊かになってほしいと願っています。「子ども食堂」などの地域の活動に関わりがもてたらいいなと思っています。



みやがわ店
野中 ちづる

お店には認知症が疑われる方や身体が不自由な方も来店されます。誰もが気持ちよくお買い物を楽しんでもらえるように心がけています。



伊勢センター 石倉 涼

能登半島地震以降、組合員から「いつ何が起きるかわからない、どうい準備が必要なのか」と不安の声をよく聞きます。避難に必要なグッズや簡易トイレなどカタログから提案し、まずは自分の身を大切にしてほしいと声をかけています。



福祉サービスセンター松阪
加藤 智子

一人ひとりの利用者さんに寄り添い、家族の方とも一緒に考えて、利用者にとって1番の介助を行っていきたいと思います。

地域での見守り活動

～誰一人として取り残さない社会の実現をめざして～

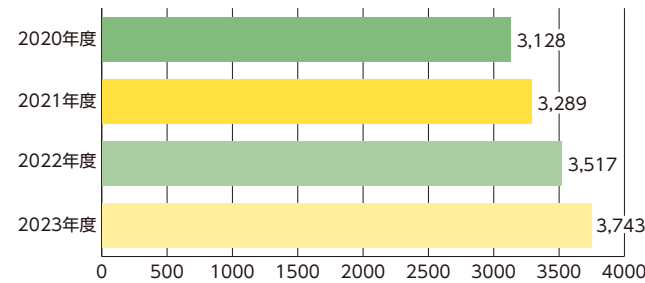
事業活動を通じた見守り活動

コープみえの宅配や夕食宅配のお届けが定曜日に同じ職員が対応することを活かした見守り活動を実施しています。夕食宅配では、前日のお弁当が未開封で残っていた場合に、事前に登録した連絡先に毎月約80件連絡しています。



夕食宅配の配達カバー率	99.8% (離島を除く県内全域)
緊急連絡先登録率	31.0%

夕食宅配数の推移(1日あたり食数)



各地ですすむ見守り協定

配達等の訪問先で高齢者、障がい者、子ども及び子育て家庭に異変を察知した場合に、連絡等の必要な対応を行う協定です。

地域見守り

高齢者等の見守りと支援に関する協定締結市町一覧

- 桑名市
- 四日市市
- 鈴鹿市
- 亀山市
- 津市
- 松阪市
- 伊勢市
- 名張市
- 尾鷲市
- 熊野市
- 木曾岬町
- 東員町
- 朝日町
- 川越町
- 明和町
- 玉城町
- 多気町
- 度会町
- 大台町
- 南伊勢町
- 大紀町
- 紀北町
- 紀宝町
- 御浜町

高齢者見守り協定以外のネットワーク登録一覧

いなべ市	高齢者見守りネットワーク登録
伊賀市	高齢者あんしん見守りネットワーク登録
鳥羽市	あんしん見守りネットワーク登録
志摩市	あんしん見守りネットワーク登録
尾鷲市	高齢者等SOSネットワーク事業
木曾岬町	高齢者見守りネットワーク事業協定
御浜町	徘徊SOSネットワーク登録

職員が認知症サポーター養成講座を受講

配達時に組合員の異変を感じた際の地域との連携や店舗での高齢組合員の対応にあたっています。認知症サポーター養成講座では、組合員への気づきと対応、地域と一緒に見守りをすすめる流れを学んでいます。

参加職員の声

具体的な事例によって症状や対応がわかりやすく学べました。



つながりづくり活動

コープカフェで地域の人どうしのつながり、交流の場づくり

コープカフェは、組合員や地域の人々が困りごとや日ごろのコープみえについて、楽しく交流する場として、組合員が開催しています。地域の誰でも参加でき、地域の人どうしのつながりを通じて、誰もが安心してくらし続けられるまちづくりをめざしています。



つながりユース

子育て層から高齢者層までさまざまな年齢層の方が物々交換を通じて集える場づくりをすすめています。



コープくらしの相談窓口

「くらしの相談窓口」は、開設から7年が経過しました。「気軽に相談 一緒に考えます」をコンセプトに、日常生活での「心配ごと・困りごと」についての相談をお受けし、行政機関の手続き窓口や無料法律相談のご案内等、つなぎ役を役割としていますが、これまでに1,500件余りの相談が寄せられています。

職員の対応事例



耳が不自由な組合員と会話をしたくて手話を勉強しました

伊賀センター
北島 美香



担当しているコースに、耳が不自由な組合員がいらっしゃいます。「組合員と楽しく会話したい」と思い、自己紹介の手話から勉強することにしました。覚えてたの手話で「私は北島です」と組合員に挨拶すると、本当に嬉しそうなお顔をされていました。今後も少しずつ手話を覚えて、組合員と楽しく会話ができれば私自身も嬉しいです。

配達中に嘔吐している熱中症の児童を救護しました

鈴鹿センター
埜下 和輝



午後の配達中、道に座り込んでいる男の子がいたので声をかけました。嘔吐しており、唇も乾燥していて熱中症の症状がみられたため、組合員からいただいたジュースを男の子に飲んでもらいました。キッズケータイを持っていたので、母親に連絡をして、家まで一緒に歩いていきました。地域担当者として配達をして良かったと思いました。

看病している母親の代わりに来店した小学生の要望に応えました

まつさか店
深田 桃代



小学校3年生ぐらいのお子さんがひとりで来店。弟が風邪をひいて寝込んでしまい、看病のため買い物に出られないお母さんから「スイカを買ってきてほしい」と頼まれ来店してくれました。でも店内にある「スイカ1/8カット」では大きく、頼まれたサイズがないとのことでした。私はひとりで買い物に来たお子さんの要望に応えたいと思い、要望通りにスイカをカットしてお渡ししたところ、喜ばれ、うれしい気持ちになりました。

夕食宅配のお届け先で自力で立ち上がれない組合員を救急搬送対応しました

伊勢センター
森 真希



組合員さんが庭先の地べたに座り込んでいました。声を掛けましたが会話がちぐはぐで成り立たず、唇は紫色で自力で立ち上がれない状況でした。119番救急搬送対応を電話して、緊急連絡先の娘様にも報告しました。後日、配達員さんに直接お礼を言いたいと配送センターに来られました。

施設利用者にお誕生日のお祝いをして喜ばれました

福祉サービスセンター松阪
鈴木 圭子



毎月、利用者のお誕生会を行っています。該当月に生まれた方には、本人の記念写真入りのバースデーカードを作成し渡しています。ケーキにロウソクを1本立ててハッピーバースデーを利用者と職員全員が歌いお祝いします。利用者からは、「これだけ大勢の方から誕生日を祝ってもらったことは初めてで大変うれしく思います」と涙ながらに感謝の気持ちを伝えてくださいました。



1 持続可能な生産と消費のために、商品とくらしのあり方を見直す活動



●メーカー、生産者とのパートナーシップ 地産地消

産地交流会を各地で開催

産地交流会は、産地との交流を通じて商品を学び、つくり手の想いや苦勞、生産者の努力によって食が支えられていることを実感し、商品普及につなげていく取り組みです。



||| お米づくり体験(お田植、収穫)

お米づくり体験は、参加者が田植えから収穫までの体験を通して食文化を学び、食に関心が持てるようにすすめています。また、食が生産者や多くの関係者に支えられていることを知り、地元のお米の利用につながることをめざしています。



参加者の声

田植えがとても大変で、これからはお米を1粒も残したらいけないと思いました。

||| 産地交流会

●栽培自慢のみかん産地見学&収穫体験

JA多気郡で開催し、生協の組合員と生産者のみなさんとの交流を深めました。



栽培自慢

地域環境や安全性に配慮して生産管理を行っている農産物を生協独自に「自慢の取り組み」として認証しています。

参加者の声

生産者の方は話やすく交流できました。直接みかんについて質問できてよかったです。

||| 三重の野菜をひろめる取り組み

伝統野菜「三重なばな」をひろめる取り組みとして、組合員が生産者のもとを訪ねて生育中の畑の見学、収穫体験を行いました。



定期的に産地交流することで関係性も強くなり、生産者の方にも「食べてもらう人の顔」を思い浮かべてもらうことができました。

組合員の商品づくり

各地域で活動する「商品活動をすすめる会」は、組合員の声を基に商品の開発や見直しに取り組み、商品の良さをお知らせしています。

—2023年度の商品開発や見直し商品—

「はぐくみ自慢の豚で作ったミルフィーユカツ」、「鱈はらすみりん干し」、「まるで生のり佃煮」、「松阪牛コロッケ(生協専用)」、「三重県産真鯛スライス(刺身用)」等



紀北商品活動をすすめる会

●エシカル消費

地域や社会、環境や人々に配慮して、モノやサービスを買うエシカル消費。コープみえでは、コープ商品を通して組合員が誰かの笑顔につながるエシカルな買い物の考え方を knowing、利用できる機会をひろげています。

北海道 野付漁協との交流活動

環境保全型の漁業をすすめる野付漁協の活動に賛同・協力し、1988年から植樹活動を行っています。職員が植樹活動と産地・加工場・セリの見学、秋鮭の解体体験等に参加しました。



参加者の声

みやがわ店 猪飼 健二

地球規模の環境変化、資源枯渇などの影響による漁獲量の減少から、「資源管理型漁業」「獲る漁業から育てる漁業へ」の重要性を学びました。



コープサステナブルシリーズの普及活動

「誰かの笑顔につながるお買い物」をキャッチフレーズに、環境と社会に配慮したエシカル消費の取り組みをすすめています。主原料にサステナブル(持続可能)な原料を使用した商品を「コープサステナブルシリーズ」としてお知らせし、普及活動を行っています。



「コープの森づくり」植樹資金の寄付

「コープの森づくり」は、海の生き物と、それを育む森を守る活動を東海コープとして取り組みをすすめています。沖縄 恩納村の里海づくりや北海道 野付漁協のお魚を増やす植樹活動、インドネシア マングローブの森づくりに組合員の関連商品の利用によって、1点あたり1円の植樹資金を寄付しています。



サンゴの植樹



サンゴ植樹資金	166,467円
お魚を増やす植樹資金	141,709円
マングローブ植樹資金	51,312円
合計	359,488円

アンゴラの学校づくりを支援する コアノンスマイルスクールプロジェクト

コアノンシリーズ1パック購入につき1円が、ユニセフを通じてアフリカのアンゴラ共和国に寄付され、子どもたちが楽しく学べる環境づくりに使われています。



●キャンペーン寄付額

第13期 (2022年11月1日～2023年10月31日)	1,044万2,968円
2010年～累計	1億5,364万5,746円

2 地球温暖化対策を推進し、再生可能エネルギーの利用・普及活動



コープみえでは環境政策に基づく省エネ対策や、CO₂ 排出量の削減、廃棄物の削減など環境負荷の軽減に取り組み、環境に配慮した商品の普及をすすめています。コープみえの取り組みと組合員の活動を通じて、生物多様性の保全と地球温暖化の防止に努め、持続可能な社会づくりをめざしています。

●環境保全活動

環境美化運動に取り組んでいます

三重県漁業協同組合連合会主催の「海と渚環境美化運動」(白塚海岸)や鈴鹿エリア会主催の「海岸清掃と拾ったマイクロプラスチック等のゴミやもので簡単工作」(鼓ヶ浦海岸)などにコープみえの組合員や役職員が参加し、環境を守る取り組みをすすめています。



参加者の声

プラスチックゴミの多さに衝撃を受けました。海を守るためにできることをしていきたいです。

まつさか環境フェアinベルファームに参加

「脱炭素社会の実現に向けてわたしたちができること」をテーマに、地域で環境活動に取り組んでいる企業や団体が集まりイベントが行われました。コープみえからは、子どもから大人までみんなで環境について考えるきっかけになるように「間伐材を使ったマイはしづくり」を出展しました。



参加者の声

子どもには難しいかなと思っていただけ、自分から学ぼうとしてくれていました。

さくさく片付く!「捨てられない物」の整理術を開催

生活コラムニストのももせ いづみ氏を講師にむかえ、くらしあんしん講座を開催しました。`不要なものを捨てる、のではなく、`大切なものを選ぶ・残す、の視点で、洋服、食器、本など、分類別を選ぶ基準を学びました。



参加者の声

お気に入りのものだから捨てるに活かすなど素敵な言葉を教えていただきました。

エコ川柳

エコ川柳は、家庭や身近な場所で環境保全活動をすすめるエコファミリーメンバーの組合員から寄せられました。

- フードロス 値引きシールで 貢献だ
- 一部屋で 一家団らん 一石二鳥
- 物価高 アレンジレシピ フル回転
- 古い服 捨てる前に ぞうきんに
- 買物は 少な目買いで ロスふせぐ
- 洗濯は 風呂水使い 家計に貢献
- 家庭ゴミ 意識で変わる 資源ゴミ



●地球温暖化防止活動

環境活動寄付金贈呈



コープみえでは、環境活動に取り組む地域の団体の活動を支援し、地域や環境活動団体どうしの協同やつながりづくりを目的に2004年から寄付活動を行っています。2023年度は5団体の寄付先が決定し、環境活動寄付金贈呈式・環境活動団体交流会を開催しました。

団体名	寄付額
松阪ダンボールコンポストの会	14,080円
鈴鹿市生活学校	31,945円
社会福祉法人山際福祉会 たけのご保育園	100,000円
特定非営利活動法人 竜の森林	100,000円
環境学習サークルみえ	100,000円

リサイクルを促進するエコセンター

エコセンターは、2016年に稼働し、コープぎふ・コープあいち・コープみえと東海コープで、循環型環境社会の実現への貢献をめざしリサイクルを推進しています。

配送センターで回収している使用済みの商品案内やたまごパックを集積・圧縮して、環境資源として出荷しています。



	2020年	2021年	2022年	2023年
商品案内書の回収	2,014t	2,029t	2,085t	2,022t
内袋の回収	37t	35t	32t	33t

ISOの取り組み(EMS、QMSの活動)

ISOの取り組みをすすめ、CO₂排出量等の削減やリサイクル、廃棄物削減を行っています。

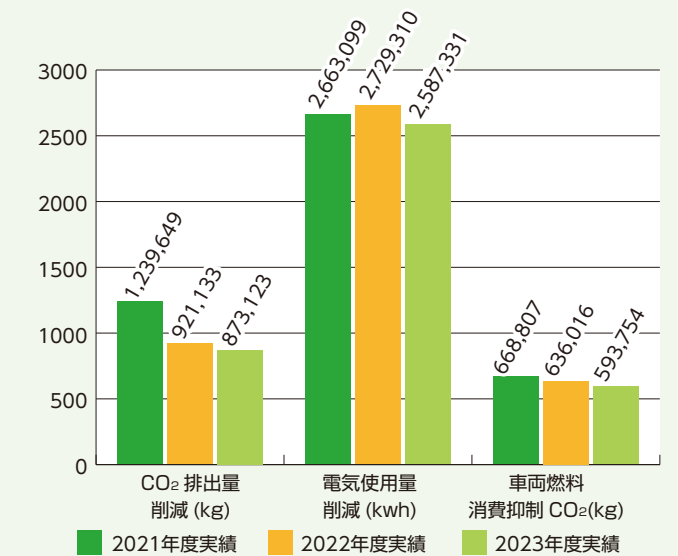
環境活動パフォーマンス報告、品質活動の報告

コープみえは、ISO14001規格にもとづき環境負荷低減の取り組みを行っています。

また、組合員や地域・諸団体とともに、生物多様性保全、地球温暖化防止に向けた環境活動をすすめています。日常的な省エネ活動や、夏場のエコスタイル、室温の温度管理、ノー残業デーやライトダウンの実施に取り組みました。



CO₂ 排出量削減に向けた環境負荷低減の取り組み



コープみえでは2030年CO₂排出量60%削減(2013年度比)を目標に取り組んでいます。

3 世界から飢餓や貧困をなくし、子どもたちを支援する活動の推進



ユニセフ募金

コープみえの組合員、県内の諸団体のみなさんとともに手を携えてユニセフ募金に取り組みました。武力紛争が激化するウクライナやガザの子どもたちへの支援のため、コープみえでは募金の呼びかけを行いました。

「ウクライナ緊急募金」「ガザ人道危機緊急募金」合計金額(累計)	3,132,528円
「トルコ・シリア地震緊急募金」「リビア洪水自然災害緊急募金」合計金額(累計)	2,315,645円
ユニセフ一般募金(2024年2月20日現在)	1,503,524円



©UNICEF/UNI539224/ZAGOUT

ハンガー・フリー・ワールド

組合員から書き損じハガキや使用済みの切手等を回収し、換金して、飢餓のない世界をめざして活動しています。

ハンガーフリーワールド換金額	3,044,769円
----------------	------------

4 核兵器廃絶と世界平和の実現をめざす活動の推進



牛乳パックでつくる第五福竜丸

ビキニ環礁で被爆した第五福竜丸のことをひろく知ってもらおうと、牛乳パックの工作や紙芝居等を通じて親子で体験しました。

参加者の声

今回の福竜丸のイベントに子どもも参加できてよかったです。子どもも核実験のことを知るきっかけになりました。

紙芝居「はだしのゲン」の読み聞かせ

『はだしのゲン』が広島市の平和教材から削除されることになり、平和への想いを継承していくため、紙芝居の読み聞かせと交流を行いました。



参加者の声

子どもたちに戦争について伝えられる機会がなかなかないので、とても良かったです。

参加者の声

自らの目で、耳で、被爆の実相に触れ、多くの人々の命の重さを感じ、改めて平和の大切さを知りました。

ピースアクションinヒロシマ

「ピースアクションinヒロシマ」に組合員と職員が参加し、原爆の恐ろしさや非人道性を見て聞いて感じました。



ハート平和行進・国民平和大行進

ハート平和行進・国民平和大行進にコープみえも参加し、三重県内各地で核兵器廃絶・戦争反対をアピールし、平和のバトンをつなぎました。ウクライナ人で日本在住の山本ハリナさん、柏谷 オーリヤさんから支援を呼びかけるスピーチがありました。



5 誰もが安心して暮らし続けられる地域社会づくりへの参加



● 震災支援・災害支援

石川県能登半島地震災害支援

III 三重県食糧供給支援

能登半島地震を受けて、コープみえでは「災害発生時の生活必需物資等の調達に関する」協定に基づき、三重県生協連からの要請を受けて緊急消防援助隊三重県大隊の出動の食料等を提供しました。



III 被災地への職員派遣

コープいしかわ宅配事業やとやま生協共済支援にコープみえから職員を派遣し、被災地域の復興支援に取り組みました。



参加者の声

松阪センター 藪 龍成

のとセンターで配達と同乗支援を行いました。届けられる方へ届けることを優先していました。連絡がとれない組合員には近くを通った時に訪問したり、電話したり、連絡をとり続けていました。



能登半島地震募金報告

能登半島地震募金(2024年2月20日現在)	29,178,158円
------------------------	-------------

東日本大震災支援 福島サロン活動訪問

コープみえでは、福島への支援活動を継続して実施しています。災害公営住宅などで開催している「ふれあいサロン」を組合員と職員が訪問し、地元の方々との交流を深め、福島の現状について知る機会を持ちました。

参加者の声

鈴鹿センター 吉川 諒

サロンの訪問では、多くの方が浪江町からの避難者で、12年経っても故郷に帰れないという悲しい現実を知り、復興とはなにかを考えました。それでも常に前を向いて懸命に頑張っていると確信しました。



災害支援協定締結一覧

コープみえは、県内各地域と「災害時における支援協力に関する協定書」を締結しています。

災害時における各種協定締結市町一覧

- 桑名市
- 四日市市
- いなべ市
- 鈴鹿市
- 津市
- 松阪市
- 伊勢市
- 鳥羽市
- 志摩市
- 尾鷲市
- 熊野市
- 名張市
- 伊賀市
- 川越町
- 朝日町
- 度会町

5 誰もが安心して暮らし続けられる地域社会づくりへの参加



●地域へのお役立ち

子育て支援

||| 菟野町の委託を受け「乳児用おむつ宅配便」

菟野町が子育て支援の一環として行う「先輩ママによる乳児用おむつ宅配便事業」の業務委託を受け、四日市センターから対象の世帯へおむつの宅配を実施しました。子育て経験のある配達員が、不安や心配事がないか声をかけ、見守るとともに、赤ちゃんの健やかな成長に役立つさまざまな情報をお届けすることで、子育て世帯の孤立化防止と赤ちゃんの健やかな育ちを支援しています。



子育てひろば

子育てひろばは、4つの配送センターで月1回開催し、親子がホッとくつろいで交流できる場となっています。



子育てコープ FM 放送

FM三重で、子育てに関して地域で活動する諸団体のみなさんを紹介しています。

LPA の会

LPAの会は、組合員のより良い暮らしのため、生命保険のみなおしやくらしのお金を守る学習会を各地域ですすめています。

安全運転の取り組み



「安全を第一に考える人づくり」をめざし、安全運転トレーナー会議を開催して安全運転教育をすすめています。また、生協車両運転認定制度に基づき、職員の状態にあわせた訓練指導を実施しています。

交通事故発生推移表

年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
発生件数	63件	53件	74件	58件

「生活困窮者自立支援事業の連携に関する協定」を締結

社会福祉協議会が実施する「生活困窮者自立支援事業」の推進を図るため、コープみえで保有する余剰商品や賞味期限が短くなった防災支援物資を提供することにより、食品等の有効活用を実現するとともに、地域福祉に寄与することを目的としています。



フードパントリー提供物資の積み込みの様子

「生活困窮者自立支援事業の連携に関する協定」一覧

- いなべ市社会福祉協議会
- 四日市市社会福祉協議会
- 菟野町社会福祉協議会
- 鈴鹿市社会福祉協議会
- 亀山市社会福祉協議会
- 津市社会福祉協議会
- 松阪市社会福祉協議会
- 明和町社会福祉協議会
- 玉城町社会福祉協議会
- 多気町社会福祉協議会
- 伊勢市社会福祉協議会
- 鳥羽市社会福祉協議会
- 大台町社会福祉協議会
- 尾鷲市社会福祉協議会
- 名張市社会福祉協議会
- 伊賀市社会福祉協議会

「地域共生社会の推進に関する連携協定」一覧

- 桑名市(社会福祉協議会)
- 伊賀市
- 名張市

6 健康づくりの取り組みをひろげ、福祉事業・助け合い活動を推進



たべる*たいせつ・キッズ料理会

子どもたちの“食べることや食べもの”への興味を引き出し、自ら育つ力を伸ばす場として開催しています。キッズサポーターの組合員が子どもたちの発見や感動に寄り添い、包丁の持ち方、だしの取り方、米の研ぎ方などを子どもたちが体験します。



参加者の声

家でもつくりたい。お味噌汁を最初から最後までつくるのは初めてでおいしくできました。

福祉活動寄付金贈呈式&交流会を開催

三重県で活動する福祉団体のみなさんに寄付金を贈呈しました。福祉活動寄付金は、福祉に関する取り組みをすすめる団体や障がい者施設、福祉施設などを応援する取り組みで、今年度は7団体に総額495,920円の寄付金を贈呈しました。



福祉活動寄付金

寄付先	寄付金
一般社団法人子ども子育て・教育研究所	67,920円
子育てはたすけあいなかよし食堂	75,000円
全国ギャンブル依存症家族の会三重	55,000円
パープルリボンくまの	100,000円
四日市市難聴者友の会	23,000円
父子の会	75,000円
磯部町音訳グループさくらんぼ	100,000円

くらしたすけあいの会

困った時はお互いさまの精神で、組合員が行う有償の福祉活動です。高齢者や障がいのある方、産前産後や子育て家庭、病気やケガでお困りの方へ掃除、洗濯、買い物、食事づくりや話し相手、通院や外出の付添い、行事やご家庭での託児などを行いました。



夏休み子ども実験教室を開催

商品検査センターの見学や実験などを通じて、生協が大切にしている安全・安心の取り組みを組合員へひろげる目的で実施しています。今年は牛乳をテーマに取り上げ、牛乳の製造現場や産地の状況を伝えながら酪農家の実情についても一緒に学びました。



商品検査センターの取り組み



組合員の皆さんに、安全な食品を安心してご利用いただくため、商品検査センターでは微生物検査・残留農薬検査などの検査でチェックしています。また、検査センターの見学や広報誌などで食の安全・安心、食と健康に関わる情報を発信しています。

2024年3月20日現在

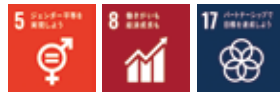
2023年度の検査(2023年3月21日~2024年3月20日報告)

検査名	実施数	適合率
微生物検査	10,207件	93%
残留農薬検査	534件	97%
食品添加物	188件	100%
放射性物質検査	133件	100%

詳しくは、商品検査センターのウェブサイトをご覧ください。



7 ジェンダー平等と多様な人々が共生できる社会づくりの推進



次世代育成支援の取り組みとして子ども参観日を開催

子ども参観日は、職員のお子さんを職場に招き、親の仕事を理解するきっかけや職員の働き甲斐につなげていく次世代育成支援の取り組みとして実施され、2つの配送センターで10名のお子さんが参加しました。



女性職員リーダーシップ研修

コープみえでは、女性活躍推進をすすめるなか、育児や介護をしながらでも仕事を続ける人が増えてきています。リーダーシップについて学び、自身の成長につなげることをめざす研修を開催しました。

参加職員の声

ダイバーシティ推進課 嶋田 光恵
研修から今後のキャリアビジョン、リーダーシップについて考える良い時間でした。



経済産業省健康経営優良法人2024認定を取得

2024年3月11日に経済産業省健康経営優良法人大規模法人部門に認定されました。健康診断や健康に関する各種費用補助、歯科健診、ウォーキングキャンペーン等役職員の健康を考えた取り組みや安心して働くことができる職場環境づくりをすすめています。



外部企業就業研修 ~大人の武者修行~を実施

組織外での学びから新たな視点を持ち帰り、日常の業務に活かすことで職場や組織に変化をもたらすことを目的とした外部企業就業研修(大人の武者修行)を実施しました。



参加職員の声 津南センター 葛原 佑規

北海道での外部企業研修では、「やり方」ではなく、「あり方」を勉強させていただいたと思います。自分が変わることですが、周囲が影響を受け、変化を起こすことはできないことを学びました。



育児休暇取得

コープみえでは、職員の多様性を活かし誰もがイキイキと働き、活躍できる職場づくりに取り組んでいます。

育児休業および育児目的休暇(出生休暇)の取得率

年度/性別	男性	女性
2019年度	80%	100%
2020年度	100%	100%
2021年度	100%	100%
2022年度	100%	100%
2023年度	100%	100%

育児休暇取得職員の声

鈴鹿センター 西出 裕人
19日間取得しました。離乳食や料理作りなどの家事を行いました。取得することで家族と接する時間ができてよかったです。



ハラスメント防止研修

ハラスメントを絶対に許さない職場づくりをめざそうと、ハラスメント防止研修を実施しました。

13会場
(35回開催)



コープみえの内部統制システム・第三者意見

内部統制システム

コープみえの機関運営と組織、内部統制・マネジメントの取り組み

コープみえは、生協法をはじめ関係法令及び定款等に則った機関運営や業務執行の強化に努めています。

III 機関運営と組織

最高決定機関である総代会での決定に基づき理事会、常務理事会で日常執行がすすめられています。理事会の執行を監事会が監査し、決算会計については、監査法人による外部監査を実施しています。

III 内部統制活動

2023年度内部統制システム推進の基本方針に基づき、内部統制活動をすすめてきました。

基本方針	2023年度の主な取り組み
1. 理事及び職員の職務の執行が、法令及び定款などに適合していくための体制を整備し、取り組みをすすめる。	<ul style="list-style-type: none"> 法令等の制定、改正の情報収集や遵守監視・確認を毎月開催される内部統制推進委員会で共有してきました。 職員ハンドブックを全職員に配布し、周知・徹底をはかりました。 コンプライアンス及びハラスメントの管理者研修会を実施しました。またウェブによる意識調査アンケートを実施し、各職場で調査結果の共有とまとめを実施しました。 通報・相談窓口の周知と対応をすすめる、ハラスメント内部相談窓口に8件、外部相談窓口に9件の相談がありました。
2. 生協の事業及び財務の状況の情報開示、理事の職務執行に関わる情報管理を適切に行う体制を整備し実行していく。	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報保護、機密情報管理の一般学習会を実施しました。 個人情報、機密情報の台帳メンテナンスや事故発生時の監視と対応をすすめました。 パソコン管理基準に基づくセルフチェック等を実施しました。
3. 事業の遂行の障害や損失の要因となる「リスク」を管理し、損失予防や緊急事態に備える体制を整備し、実行していく。	<ul style="list-style-type: none"> 重要リスク評価と重点リスクの特定と対応計画を作成し、内部統制推進委員会で確認してきました。 管理者対象にリスクマネジメント研修会を開催しました。 事故・ヒヤリハットの事例の集約と予兆への予防対策を実施しました。 災害マニュアル、避難マニュアルの整備やMCA無線、緊急時の連絡網の訓練等が実施されました。
4. 理事及び職員の業務の執行が効率的に行われるしくみや体制を整備していく。	<ul style="list-style-type: none"> 2023年度の体制変更に伴い、規程集の更新、整備をすすめる、ウェブでの閲覧を実施しました。 内部統制に関するセルフチェックを実施しました。 ISO9001の運用のなかで、業務フローの見直しや業務改善等をすすめました。 統合された内部統制の内部監査とMS内部監査を、全部署で実施しました。
5. コープみえの関連する会社等における業務の適正を確保する体制を整備していく。	<ul style="list-style-type: none"> 関係会社管理規程に基づき、関連会社となる(株)スマイルサービスみえの総会への参加や対応をすすめました。
6. 監事監査及び監査業務が実効的に行われる環境を整備していく。	<ul style="list-style-type: none"> 監事会と代表理事の定期懇談や経営組織監査を実施しました。

〈サステナビリティレポート第三者意見〉

コープみえの「2030年理念・ビジョン」とSDGsとの親和性は非常に高く、サステナビリティレポートの内容がSDGsを実現するための7つの取り組みに沿ってまとめられており、コープみえの活動の全容が理解しやすくなっています。

紹介されている個々の活動事例は、現代社会が求めている福祉、子育て、共生、平和、環境などについて、組合員の生活や地域社会に寄り添いながらも幅広い対象者やグローバルな視点も含めて行った社会貢献活動です。自然災害や社会的課題に高い関心を持ちつつ、緊急を要する課題には臨機応変に迅速に対応している活動の様子も読み取ることができます。これらの活動からはつながりの希薄化の危機を乗り越えようとするパワー、被災者や生活弱者に寄り添うやさしい心、子どもの未来を守ろうとする強い姿勢などを感じることができ、コープみえの基本理念が生かされています。特集で紹介されている「地域での見守り活動」は、事業者として独自性のある

素晴らしい活動です。三重県の「安全で安心な三重のまちづくりアクションプログラム(第3弾)」の好事例になり得るでしょう。

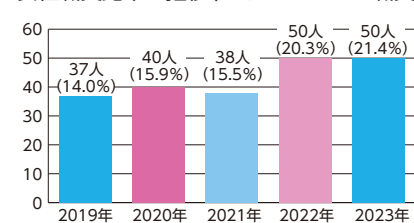
残念ながら、このサステナビリティレポートからは、2023年度の目標や活動方針に沿った成果と課題を読み取ることは難しいです。「コープみえSDGs行動宣言」の2030年の到達目標を視野に入れながら、年度毎の活動方針を示し、PDCAサイクルに沿って評価できるとよいのではないのでしょうか。

コープみえは、地域になくてはならない存在になっています。さらに積極的な情報の発信により事業活動を多くの方に知っていただくことによって、コープみえへの関心や信頼が高まり、それが組合員の増加や組織力の強化につながることを期待しております。

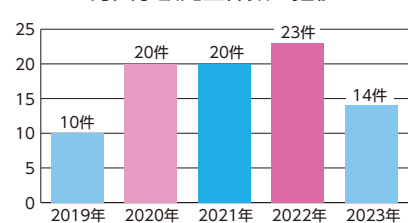
吉本 敏子(消費者市民ネットワークみえ代表 三重大学名誉教授)

女性職員比率、労災事故発件数、障がい者雇用率推移グラフ

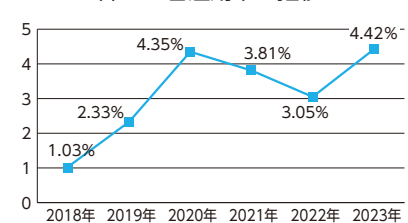
女性職員比率の推移(ゼネラル・エリア職員)



労災事故発件数の推移



障がい者雇用率の推移



※6月提出「障害者雇用状況報告書」より